CORPORATE DX PLAN 2026 -

熊本交通運輸株式会社
DX計画

～ 2026年8月25日 ～

01 MESSAGE FROM CEO

代表者メッセージ

熊本交通運輸株式会社は「物流を通じて社会に、お客様に貢献し続ける企業」を目指す姿として掲げ、地域と熊交グループの持続的な繁栄、創業100年に向けた環境問題への対応、そして社員の和を創造する職場環境の構築を実現するため、デジタル技術とデータを経営の中核に据えたDXを推進します。

物流業界では、労働力不足、時間外労働規制、荷主要求の高度化、環境対応などの課題に直面し、従来型の運営だけでは持続的な成長が難しくなっています。

そのような環境において、当社はこれまで、様々なデジタル活用を推進してきました。今後は個別最適の段階から一歩進み、ドライバーなどの現場・事務・経営を横断する全体最適とデータ活用による付加価値創出に取り組み、総合物流企業としての競争力と持続可能性を高めます。

当社は「専属・専門輸送」「長距離輸送」「倉庫部門」の総合物流サービスを展開し、地域発展への貢献を掲げています。DXは、この強みをさらに高め、変化の大きい物流環境の中でも、お客様への安定供給、現場の生産性向上、環境対応、人材定着を同時に実現していきます。



代表取締役
住永　富司

02 DX VISION

DXビジョン

“

データとデジタルで物流を進化させ、
社会とお客様に貢献し続ける企業

”

VALUE 01
物流サービスの高度化

VALUE 02
業務の全体最適化

VALUE 03
持続可能な経営基盤構築

03 DX DIRECTIONS

DXの3つの方向性

DIRECTION 01

物流サービスの高度化

FIELD / 現場系

- 現場系システムを連携し、配車・運行・倉庫・車両・ドライバーのデータを統合活用
- ルート最適化の高度化、配送品質向上、積載率向上により空車削減を実現

DIRECTION 02

業務の全体最適化

BACK OFFICE / 事務系

- 事務系システムの連携とワークフロー導入
- ペーパーレス化、重複入力削減、承認業務の迅速化により管理部門の生産性向上を実現

DIRECTION 03

持続可能な経営基盤構築

FOUNDATION / 経営基盤

- 経営データの可視化、人材育成、環境対応、セキュリティ強化を進める
- 収益性向上、働きやすい職場づくり、地域と熊交グループの持続的繁栄につなげる

STRATEGY 01 / FIELD

物流サービスの高度化

STRATEGY 01

AIM

戦略の狙い

経験知にデータ活用を融合し、
高品質・高効率なオペレーションへ

- 配送ルート最適化システム、車両管理システム、配車管理システム、倉庫管理システム、ドライバーアプリ、デジタコから得られるデータを連携・活用する
- 輸送・保管・配送の各工程を一体で最適化する
- 従来の経験や属人的判断に依存した運営から、データに基づく高品質かつ高効率な物流オペレーションへの転換を進める

INITIATIVES

主要施策

- 配車、運行、車両、倉庫、ドライバー、納品条件などのデータを統合し、受注から配送完了までの一気通貫管理を実現する
- 実績データを活用し、ルート最適化の高度化を進める
- 配車計画と庫内作業計画を連動させ、輸配送と倉庫業務の同時最適化を図る
- デジタコ・車両データを活用し、安全運行管理、燃費改善、待機時間削減を推進する
- 配送品質データを蓄積・分析し、遅配、誤配送、再配送の削減を進める

STRATEGY 02 / BACK OFFICE

業務の全体最適化

STRATEGY 02

AIM

戦略の狙い

紙・手作業・重複入力からの脱却で、
生産性と統制を同時に高める

- 会計、勤怠管理、人事労務、受発注管理、精算管理、スケジュール共有、名刺管理などの既存システムを前提に、ワークフロー整備とシステム間連携を進める
- 紙・手作業・重複入力を前提とした業務運営から脱却する
- 管理部門の生産性向上、内部統制強化、業務標準化、属人化の解消を実現する

INITIATIVES

主要施策

- 稟議、申請、承認、精算、届出等の業務に対し、電子ワークフローを導入する
- 受発注、会計、精算、人事労務などのシステムを連携し、二重入力・転記作業を削減する
- 帳票、申請書、報告書、承認書類の電子化を進め、ペーパーレス化を推進する
- 各システムで重複して管理している情報を整理し、共通マスタ化・データ整備を進める
- 業務フローを標準化し、部署や拠点ごとの差異を見直して、全社横断で統一運用を進める

STRATEGY 03 / FOUNDATION

持続可能な経営基盤構築（データ経営）

STRATEGY 03

AIM

戦略の狙い

経験知と客観的データを融合し、
意思決定の質とスピードを高める

- 現場系・事務系システムから得られるデータを経営資産として一元的に把握
- 拠点別・顧客別・車両別・業務別の実績や採算を可視化する
- 迅速かつ精度の高い経営判断を可能にする
- 勘や経験に加え、客観的データに基づく意思決定を定着させ、収益力と競争力の向上を図る

INITIATIVES

主要施策

- 売上、原価、配車、稼働、在庫、労務、品質等のデータを整理し、経営ダッシュボードを構築する
- 顧客別採算、拠点別収益、車両稼働率、人時生産性等を可視化し、採算管理の高度化を進める
- 経営会議で活用する主要KPIを定め、定例モニタリング運用を定着させる
- データ分析結果を、配車改善、受注条件見直し、拠点運営改善、投資判断に反映する
- DX推進の進捗を定期的に評価し、計画の見直しサイクルを構築する

STRATEGY 04 / SUSTAINABILITY

持続可能な経営基盤構築（環境対応）

STRATEGY 04

AIM

戦略の狙い



創業100年に向けた経営基盤強化。
効率化と環境負荷低減の両立。

- 創業100年に向けた経営基盤強化の一環として、配送・車両・倉庫のデータを活用
- 物流効率化と環境負荷低減を両立する
- 顧客に対して環境価値を備えた物流サービスを提供し、地域社会の持続可能性向上に貢献する

INITIATIVES

主要施策

- 配送ルート、走行距離、積載率、待機時間、アイドリング等のデータを活用し、CO2排出の低減を図る
- 倉庫稼働やエネルギー利用状況を把握し、倉庫運営の省エネ化を進める
- 配送効率改善により、ムダな走行や再配送を削減する
- 環境関連データを管理指標として取り込み、経営と現場の双方で進捗管理する
- 環境対応を顧客提案や対外発信につなげ、環境価値の見える化を進める

STRATEGY 05 / PEOPLE

持続可能な経営基盤構築（人材育成・働きやすい職場づくり）

STRATEGY 05

CORPORATE CREED | 社訓 | 『和をもって、会社の信条と心得よ』

AIM

戦略の狙い

社員一人ひとりがデジタルを使いこなし、改善に参加できる環境へ

- DXを現場と管理部門が一体となって進める全社的な取り組みと位置付ける。
- 社員一人ひとりがデジタルを使いこなし、改善に参加できる環境を整備する
- 働きやすさと成長実感を高め、持続的な組織力向上につなげる。

INITIATIVES

主要施策

- 部門・拠点ごとにDX推進リーダーを配置し、現場起点の改善活動を推進する
- ドライバー、配車担当、倉庫担当、事務担当それぞれに対して、業務に即したデジタル教育を実施する
- システム導入時には操作教育だけでなく、業務改善の目的共有を徹底する
- 現場から改善提案を吸い上げる仕組みを整え、社員参加型のDXを進める
- 情報共有ツールや業務可視化を通じて、部門間の連携強化を図る

STRATEGY 06 / IT & SECURITY

ＩＴ基盤整備・サイバーセキュリティ強化

STRATEGY 06

AIM

戦略の狙い



連携性・拡張性・安全性を備えたIT環境で、事業継続性と信頼を確保

- DX推進の基盤として、既存システムを活かしながら、将来的な連携性・拡張性・安全性を備えたIT環境を整備する
- サイバーセキュリティを経営課題として位置付け、業務継続性と顧客信頼の確保を図る

INITIATIVES

主要施策

- 既存システムの棚卸しを行い、重複機能・分断データ・未連携領域を整理する
- 共通マスタ整備やデータ連携方式の見直しにより、将来を見据えたIT基盤整備を進める
- アクセス権管理、バックアップ、端末管理、委託先管理等を含めた情報セキュリティ対策を強化する
- 標的型メール対策や社員教育を進め、人的セキュリティリスク低減を図る
- 障害・事故発生時の対応手順を整備し、事業継続体制を強化する

04 ENABLERS

DXに向けた環境整備

戦略を確実に実行するための、人材・インフラ・組織の3本柱

PILLAR 01

人材開発

社員のデジタル基礎力向上

- 全社員に対してＩＴリテラシー向上の基礎教育を行います

部門別の実務活用力強化

- 配車担当：配車・運行データ活用
- 倉庫担当：在庫・作業進捗活用
- 事務担当：ワークフロー・電子帳票・データ連携活用
- 管理職：KPI管理とデータに基づく改善判断

DX推進リーダー育成

- 各部門・各拠点に、現場課題を拾い、改善テーマ化できるDXリーダーを配置
- 外部ベンダー任せにせず、自社内で改善を回せる人材を育成

PILLAR 02

システムインフラ

データ連携基盤の整備

- 配車、車両、ドライバー、受発注、会計、勤怠、人事などの主要システムを連携し、必要なデータを横断で参照できる基盤を整える。

マスタ整備

- 顧客、車両、拠点、社員、商品、取引先などのマスタを整理し、システムごとの不整合を減らす。

PILLAR 03

組織

DX推進委員会

- 代表取締役をトップに、現場部門、管理部門、システム担当、拠点責任者を横断する会議体を設置
- 本委員会において、各テーマ設定、投資判断、KPI確認を行う
- 四半期ごとに委員会を開催。KPIを確認し、計画・優先順位を見直す
- 必要に応じ、ＩＴベンダー等と連携

05 OUTCOMES

目指す成果

積載率向上
+5%

待機時間削減
−10%

紙使用量削減
−30%

経営ダッシュボード稼働
2027年9月 予定

社員向けデジタル勉強会実施
5 回/年

ＤＸ推進指標向上
+1.0ポイント

情報漏えいリスク低減
多層防御の実施

IT投資最適化
運用効率化

事業継続性向上
BCP強化の実施

システム連携性向上
全社統合